

# 会 議 録

会議の名称	第6期 第4回 小金井市地域自立支援協議会 全体会
事務局	福祉保健部 自立生活支援課、小金井市障害者地域自立生活支援センター
開催日時	平成31年2月12日（火） 午後5時00分から午後7時00分
開催場所	小金井市 前原暫定集会施設 A会議室
出席者	<p>【委員】</p> <p>高橋 智委員（会長）、矢野 典嗣委員（副会長）、佐藤 宮子委員 赤濱 高之委員、増田 敏子委員、吉岡 博之委員、小松 淳委員 福原 昌代委員、川久保 敦子委員、小幡 美穂委員、瀬戸口 弘一委員 三笠 俊彦委員、畑 佐枝子委員、田中 麻子委員、宮井 敏晴委員 緒方 澄子委員、室岡 利明委員</p> <p>【事務局】</p> <p>自立生活支援課長 自立生活支援課障害福祉係長 自立生活支援課障害福祉係主査 自立生活支援課障害福祉係主査 自立生活支援課障害福祉係主任 小金井市障害者地域自立生活支援センター</p>
会議内容	第6期 第4回 小金井市地域自立支援協議会 全体会のとおり

## 第6期 第4回 小金井市地域自立支援協議会 全体会 会議録

### 次第1 開会

(会長)

ただいまから第4回小金井市地域自立支援協議会を開会いたします。  
本日加藤委員さんが欠席、何名から遅刻の連絡がはいています。  
まず、配付資料の確認を事務局からお願いします。

(事務局)

<配布資料の確認>

資料1 各部会の報告

資料2 平成30年度ゲートキーパー養成研修チラシ

資料3 平成30年度精神障害者ホームヘルパーフォローアップ講演会チラシ

資料4 平成30年度障害特性の理解促進研修・啓発事業チラシ

資料5 小金井市地域自立支援協議会第5期(平成28・29年度)報告書【抜粋】

資料6 平成31年度小金井市地域自立支援協議会の協議内容の予定について

資料7 第6期 小金井市地域自立支援協議会 委員名簿(案)

資料8 平成30年度障害者週間シンポジウムアンケートまとめ  
現在作成中のパンフレット及びリーフレット

### 次第2 議題

#### 1 各部会からの報告

##### (1) 相談支援部会

相談支援部会におきましては、資料1―1にありますように地域生活支援拠点事業について検討を重ねております。資料のところに意見交換用ワークシートというのがございますが、これは(12月の終わりに)1月の終わりに、市の都道府県を主体とした研修会といいますか説明会がありましてそのときの意見交換用ワークシートに質問事項がたくさんあったものですから、研修用のものを作成していました。

国がその議題のところに書いていますが、国主催の市区町村会員向けの研修シートを使わせていただいています。

それから小金井市における障がい者の地域生活支援拠点事業のイメージ図、ここにはついておりませんが、市の方で作ったものに対しての検討というのを

させていただきまして、対応をさせていただいて意見交換をさせていただいているというところでございます。

## (2) 生涯発達支援部会

活動報告という形で資料は出ていませんが、1月15日の生活支援部会との合同の部会ということで、一般向けの条例パンフについての意見交換会をさせていただいています。

内容を羅列したものがあるといいと思いますので、ここの資料については後でちょっと事務局の方と相談させていただきたいと思います。

## (3) 社会参加・就労支援部会

1月15日に行われた就労支援者連絡会というものに参加、合同開催という形で参加させていただきまして障がいのある方の働くということをテーマに話し合ったのですが、その中で地域自立支援協議会ってどんなものかという、一応委員さんにご説明をしました、終わった後に皆さんと一緒に、障がいのある方が働くっていうことはどんなことがいいのか。

それぞれのテーブル中で話し合っている事で共通して言っていたのが、通勤のし易さっていうことが継続につながるのではないかということ、勤務の形態が柔軟な対応ができる所、後は、稼いだお金をどう使うかっていうことも出ていました。

市内の各就労支援事業所の職員さんが出席して、色々な意見が出て、とても参考になりました。

## (4) 生活支援部会

先ほど小幡委員が、言いましたように、生涯発達支援部会と合同で条例の制定に伴うパンフレット作りということで、合同の部会で意見交換会をしました。報告は、同じなので省略させていただきます。

# 2 事務局からの報告事項

## (1) 研修や講演会について

(事務局)

ご案内ということで資料2から4のご説明させていただきます。これは、研修や講演会のチラシとなっています。

資料2は、平成30年度のゲートキーパー養成研修のチラシ。

資料3は平成30年度の精神障害者ホームヘルパーフォローアップ講演会のチラシ。

資料４は平成３０年度の障害特性の理解促進研修啓発事業のチラシという形で皆様にお知らせをするということでお出しさせていただきました。

詳細な内容については、それぞれのチラシをご覧くださいと思います。

（会長）

今事務局から説明がありましたが、それぞれについてご質問等ありましたらお願いします。

（副会長）

資料４の１４日に開催される合理的配慮の講座は、どんなことを想定してお話しされるのか。どなたが説明するのか、どんな形ですか、もう少しお話しただけならありがたいなと思います。

（事務局）

市民向けに行う、毎年度行っている障害特性の理解促進研修啓発事業という研修です。

前年は、高次脳機能障害の関係の研修させていただいて、今回は差別解消条例が制定されたということで、ヘルプマークとヘルプカードと合理的配慮についてということでさせていただく予定です。

通常なら講師の方をお呼びしてお話するところですが、今回は、ヘルプマークとヘルプカードについては私ども自立生活支援課の小早川主査に、合理的配慮についても自立生活支援課の吉本主査からお話をさせていただくという形で考えています。

（会長）

これは、何かＷｅｂサイトにもアップしますか。

（事務局）

はい

(2) 障害者週間シンポジウムアンケートのまとめについて

（事務局）

資料８をお願いいたします。

平成３０年度障害者週間シンポジウムでいただいたアンケートのまとめになります。詳細な内容についてはご覧くださいと思います。

以上です。

(会長)

時間があるので、かいつまんでご紹介されたいかがですか？

(事務局)

では、アンケートのご協力いただいた方は53名、ダブリを含めると54名です。シンポジウムのアンケートは54名でしたが、確か参加いただいた方は90名ほどいらっしやったと思います。

シンポジウムをどちらでお知りになったかというところでは、やはりチラシやポスターというところが多くなっております。

また、内容についても、ほとんど皆さん満足という形でいただいております。

その理由は、「先生の講演がすごく良かった」とか「感動した」というような話が一番多くありました。

ただやはり不満足な部分もありまして、スクリーンが見づらいという部分がありましたので、次回からの反省点にしたいと思っております。

実はスクリーンの方はパネリストの方が前にいらっしやったので、その上部にある照明を消すか消さないかで迷ったのですが、照明もすぐには点けたり消したりできない照明であるということでしたので、最終的にはちょっと点けさせていただいた関係で、スクリーンの文字等が見づらいという形になってしまいましたので、次回に生かしたいと思っております。

ディスカッションについても、よかったということで、お話聞けてよかったがほとんどだったというふうに思います。

ただディスカッションの方々の名前が見づらいというご意見がありました。

お名前と肩書きが眼鏡をしていても見えないというご意見いただきまして、事務局が用意したものが見えづらかったという事で、次回にこう言った形で行う時には、配慮したいと思います。

(会長)

すいません急に振ってしまって、せっかくです。他には委員からありますか。

(委員)

シンポジウムのアンケートを見たかったので、お願いして今日出させていただきました。こちら見ていただくと、本当に皆さんいろいろと考えて感じてくださったと受け取れて、私も嬉しく思っています。

講師の方をお呼びでき、パネリストの方にも協力していただいて、このような

講演会という形ができました。

パネリストについても三笠さんにお礼を言わないとと本当に思っていて、商工会に関わっていただきたい中でご紹介いただいて渡邊社長に良いお話をしていただいたと思っています。

田中麻子さんにもお話しいただいて、PTAの方それぞれの立場で話していただけて、またその人たちがいろんなところにまた声をかけてくれる。

こういうシンポジウムで話をする。そういうところから聞いたよと広がっていくと思います。広報の仕方も良かったと思っています。

(会長)

また今年も間違いなく差別解消委員会でなくても、今から次年度のシンポジウムの中身について考えていく。

午前中は協議会が講演会をするので、専門家の話も聞きたいけれど、当事者の専門家の例えば、ご本人にお願いするのもバランス良いのではないではないかと思います。今年も、そうでいう形でしたね。

(委員)

すいません。私業務の都合で行けなかったもので、行きたかったなと思っていますが、良かったという意見が多いわりに、アンケートの回収率が少ない。

何かご配慮をしないと意見をいただけない方がいたのではないですか？

(事務局)

次の催し物があるので、バタバタしている状態の中で私どもの中の担当1人2人がアンケートをお願いして回収していく形なので、なかなか目が届かない部分はあったかと思っています。

(会長)

反省事項として何かできないかと考えたいと正直そんな感じでした。

アンケートが終わったあと、急に撤収という形になってしまって我々も焦って片付をする感じになったので、落ち着いてアンケート書くというような雰囲気もなくなったので、押せ押せだったので、時間が必要とか、書く台がないと難しいとか、配慮が必要でしたね。外に出た後に、台などがあって書けるスペースがあったら良かったですが、なんかもう出てくださいという感じでした。

追い出される状況があったので、外でアンケートを書けるようになっていたら、もう少し回収率は多かったと思います。

多分ここにいたメンバーで出した人いないのでは、自立支援協議会ではシン

ポジウムだけを運営していましたが、実際には障害者週間の実行委員会っていうのがあって、ずっと前から準備をしています、自立支援協議会がやはりかかわって一緒に作ってくみたいなことがないと多分実行委員会の人たちもあれっと思ったりするのではないのかなと思います。

(副会長)

挨拶だけは直前に行きますが、連携の仕方もちょうと考えた方がいいのかなと思います。

(会長)

私も全く同じ意見です。

今年の実行委員会の反省会も参加して、連携が必要です。

障害者週間は地元の事業所さん達が出ているので、歩み寄って一緒に考えていく。元々は何かシンポジウム部分をスタートしましたが、コラボにはならなかった。午前中のあの時間だけってことではないですよ。

(事務局)

障害者週間の担当をしています。

反省会ではそんなに辛辣ではありませんが、その連携を来年度以降どうしたら良いのか自立支援協議会の方が障害者週間の実行委員になっていただくって、それはこの場では即答できないでしょうが、第3木曜日の午後4時からなので誰か1人出ていただいたら実行委員会で午前中のことについても、障害者週間のときに自立支援協議会としてはこういうことかとか困っていることがあるとか発表すればもっとお互い協力できることはなることも来年度以降は考えられるのではないかなと思います。

(会長)

とても良い提案ですよ。

このメンバー何人か例えばね、部会長方が交代でとかいうような事も考えられますよね。

例えばですよ。無理にとは考えていません。

そんなふうに実行委員会に関わっていく、これは課題として、継続できればなと思います。

### 3 協議事項

(1) 今年度の協議会のまとめと来年度の目標について

(事務局)

それでは資料５と６を説明させていただきます。

資料５は小金井市地域自立支援協議会第５期平成２８年、２９年度の報告書の抜粋となっています。

資料６は平成３１年度小金井市地域自立支援協議会の協議内容の予定についての資料になってございます。

今年度は最後の全体会という形になりますので、資料５をご覧ください、第五期の自立支援協議会からの引き継ぎ事項を確認していただきながら、資料６については次年度の協議予定や、裏面に今年度の振り返りが書けるようにさせていただきます。

生活支援部会でも同じように振り返りされたりしているというふうに思いますので、自立支援協議会の全体の向けに作成をさせていただいたところでございます。

この用紙の利活用方法については、協議会の委員の皆様の方で協議していただきたいと思います。

(会長)

６期の引き継ぎが書いてあってそれを踏まえながら、今年を振り返ると、それから次年度の予定について協議をする場が、来月も含めて、もうないのでね。

(委員)

初めてなので分からないので教えて下さい、この引き継ぎ事項の中の５番で、保健福祉総合計画に沿った事業等の進捗状況についての点検という項目がありますが、これは自立支援協議会の全体会とかで、点検をすると決まっているのか、しなくては行けないと決まっているものなのか。やってみたらどうでしょうっていう、提案レベルのものなのかちょっとその辺がわからないので、教えていただけたらと思います。

(事務局)

保健福祉総合計画というのは、障害者計画と障害福祉計画があり、平成３０年４月から障害福祉計画の方は３年ごとにＰＤＣＡを繰り返していく形になっています。

障害者計画の方は、今回の計画から６年後というかなり大きい枠で回ってくる形になります。

福祉計画の方の話を先にさせていただくと、施設とかの利用人数とかの計画になりますので、地域自立支援協議会で協議することが多いので、毎年毎年これ



をずっと全部回していくと、それだけで協議会が他の協議ができず終わってしまうのではないかとということで3年ごとの部分で、再来年度にもう1回点検をして新しく計画を作っていくって形にした方がいいのではないかとというふうには考えているところです。

(会長)

ご質問の主旨は、今年度も点検しなくてよろしいのですかっていうことだと思います。

(事務局)

今年度の点検については生活支援部会の方で点検してもらっている形ではありますので、本来ならば全部点検していくのが望ましいとは思いますが、現状では3年ごとの点検の形にさせていただければと私どもで考えています。保健福祉総合計画は、新しく委員になった方は抜き刷りで印刷されたので、その前のときから引き継いでいる方は冊子になった物を配布させていただいております。

(副会長)

障害者計画の部分だけ僕ら議論してればいいという訳ではありません。

地域福祉計画は別で、僕らが関わってはないですが障がい者の問題っていうのは必ず入っているんで、その辺も含めて点検作業をしないといけないと思っていますところ。個人的には保健福祉部検討委員会にも代表として出させていただいた関係からいえば、やはりここで出た意見を持って一定発言を、極力するようには努力をしたつもりですが、そういうふうに全体を見たところで、僕らがどう関わっていくかっていうところでは、定期的な点検作業が必要ではないかと思っていますところ。

今年、生活支援部会がやったのは報酬改定に伴って、特に学童の放課後デイの運営ができなくなるのではという危機感があったのと、計画の中では3年間の間にいくつふやしますという計画が出ていますが、報酬改定に伴ってそこが頓挫となったらどう実現していくのかっていうのは、市が考えなくては計画数値があるので、現状と状況のそこの乖離した状況になりつつあるのはどうしていくのかっていうのを埋めていくのかっていうのはやっぱり議論をしなくちゃいけないだろうと思っているので、また報酬についても、いろいろこれから消費税10%の中で厚労省が多分3月位に出してくるような状況もあると思うので、そうすると各事業所がどういうふうに財政的に運営が成り立つのか、また、支援計画そのものが崩れてくるだろうし、当事者の人たちや家族の人たちは利用をもっと増やしてほしいという願いがあっても、計画上それを増やせないって

うことも起こるんだらうと思っています。

社会資源を小金井市内にどれだけきちっと確保して、サービスを確保してあげるかっていうのは、もう直近の課題としてもあるので、定期的に議論をする場を作っておかないといけないだらうと個人的にはと思っています。

(会長)

去年の今頃は、まだ条例もなかった。

それから、社会参加・就労支援部会もなかった。

それから条例に伴うパンフレットもなかった。

この1年間で相当頑張って部会も条例もパンフレットも作ってきたっていうのは今年の振り返りをするとかかなりある面ではいろんなことをして来たと思います。一応いろんなことが山を越えたので本来のテーマの自立支援協議会がちゃんと継続的にやらなきゃいけない課題が何かということについて、次回の各部会で話し合い、次年度の計画を作って行きましょうということです。保健福祉総合計画の点検もしっかりやって行かなければならない。少し、トピックやイベントですね、たぶん次年度はオーソドックスな活動をどういうふうに構成していくかですね。

今年の振り返りと次年度の協議会は、3月の最後の部会でしっかりと協議しましょう。

## (2) 差別解消委員会について

(事務局)

資料7は、第6期の小金井市地域支援協議会委員名簿(案)です。

これは差別解消委員会の関係で出させていただきました。

大変遅くなって誠に申し訳ございません。3月に差別解消委員会を行いたいと考えてございます。

その中で資料7の小金井市地域自立支援協議会設置要綱の抜粋を出しましたが、差別解消委員会の委員は、会長が指名するということになっています。

そして、この名簿の一番下に幡野博基さん、この方が弁護士会さんから推薦された方という形になってございます。

弁護士の方以外は、想定しておりました通り自立支援協議会の委員の中から5名ほど選んでいただくという形になるかと考えております。

当初の予定では、会長と部会長4名という形と、あと弁護士の6名という形を考えていましたが、ご協議または会長からのご指名という形をお願いできればということで出させていただきました。

(会長)

ちなみにこの弁護士の幡野先生についてご説明いただけますか。

(事務局)

この幡野先生ですが、ご本人に差し置いてということになりますので、ホームページで公開されているプロフィールから抜粋してご説明をさせていただきます。

三多摩の弁護士会の事務局の方から推薦されまして、今幡野先生が所属している事務所が多摩パブリック法律事務所というところになります。

多摩パブリック法律事務所は、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、三多摩地域に公設の法律事務所がなかった経過がありまして、ようやくできたという法律事務所になります。

所長の西畑先生についても、インターネットで検索すると有名で、ご存知かと思いますが。後で事務局に聞いていただければと思います。

その上で幡野先生ご自身は、いわゆる若手の弁護士さんで、本人自身が弱視の視力障がいを抱えているとホームページに書いてあります。その上で、障がい者支援に取り組みたいとホームページに載ってる方なのでまさに適任の方を、三多摩の弁護士会の方から推薦いただいている所でございます。概要としては以上です。

(会長)

さて、差別解消委員会の委員はどうでしょうかってことで会長が指名するって言いますが、表を見ると緑で囲われていますね。

部会長がそれぞれ指名されていますね。部会長以外の方は深く領いておられますが、この表のとおりで宜しいですね。とても大事な委員会になりますので、しっかりとお願いしたいと思います。

差別解消委員会は、自立支援協議会とは別の会議体の形になります。

日程ですが、来月の3月7日の自立支援協議会の部会と合同部会が入っていたかと思います。

部会長の日程もあるかと思いますが、差し支えなければ3月7日の夜7時から、差別解消委員会という形で開催をお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

いろいろと議論しましたが、幡野先生が来る時間もありますから、この協議会の流れの後に差別解消委員会を開催すると、合同部会が長引く傾向にありますので、当日は少し時間を変更したいと思います。

例えば5時から6時までを専門部会の開催時間として、移動の関係もあるの

で例えば6時10分から7時までで合同部会を開催して、終わった後すぐこの場所で差別解消委員会の初の顔合わせという流れで、3月の自立支援協議会の後に、差別解消委員会を開催したいと思います。

#### 4 その他委員からの発議

(委員)

私の方からは一般向けパンフレットとリーフレットについて、この間の15日に意見交換をしましたが、その後も21日に意見交換をしたので、ご報告もかねてお話をさせていただきたいと思います。

こちらの事務局がだした資料では、ちょっと細かいことまでは申し上げせんけれど、あとの21日は主にリーフレットについての意見が多かった。

やはり時間的な関係もあり、こんな感じというイメージでパンフレットの方から抜粋して貼り付けていましたが、そこからやはりリーフレットとしての役目もあるので、もっとわかりやすく表現も全く同じではなく、変えています。

リーフレットについてだけをまず表紙については、いろいろ目的とか、社会的障壁とかありますが、それをなくして、もっとわかりやすい言葉で短く伝えるようにしました。ページを開けていただいて、中身のイラストの部分はほぼ変わりませんが、障がいてってというこの左側のバーの部分の表現をもう少しわかりやすくしました。

あとは一番後ろについては、Q&Aですが、わかりづらいよということだったので、こういう相談窓口がありますよというような形で書いています。リーフレットの方はかなり変えました。

パンフレットについてはご覧いただいて、赤字でいろいろ入っています、ここフリガナとか入っていて、ちょっと見づらいですが、そのところを加味して、なるべくわかりやすい表現をお願いしたいという意見があったので、取り込むような形にしました。今後の予定は、事務局の方からパンフレットの作成チームに出させていただきました。

一番後ろの裏表紙のところの協力していただいた方々というところに自立支援協議会のメンバーであるということがわかるようにしました、そういう資料を日曜日にお送りしましたが、今日の資料ではそれが、古い状態に戻っていると思います。

(会長)

差別解消の相談の流れがあった相談窓口があります。こちらのパンフレットの方には東京都差別解消条例パンフレットのようなイメージになっていて、多分ここはもう明確に、小金井市の流れはあるはずなので、それを使ったらいいか

と思います。

(事務局)

先週会長と話した時に、実は個々いろいろ修正してほしいという話をいただいたものがあります。修正がちょっと間に合わなかったので日曜日に作成メンバーにお送りしましたが、

事務局は土曜日までしか開いてないので土曜日時点でのデータを印刷させていただきます。申し訳ございません。

差別解消委員会という形での表現にさせていただきます。

会長がご指摘された、リーフレットの最後のページのこのイラストですが、頑張って作りましたが素人が作ったので汚いので、印刷業者さんにもっとすっきりしたもので作り直してくれという指示もしておりますので、そのときに、ここ調整委員会が表示になっておりますが、差別解消委員会というふうに入れさせていただきますかと思っております。

(委員)

スケジュールを教えてください。

(事務局)

今後のスケジュール的なところをお話します。公開の会議なので若干答えづらいのですが、すでにもう契約は締結しておりまして、印刷業者さんに初版を送っておりますので、基本的には修正はできないものになります。

ただ、今ご指摘いただいたとおり、言葉が違うとか、そういったご指摘は修正できますので、大変失礼ながら今週中に、事務局にここは違うのではといただいた物については印刷業者さんをお願いしたいと思っております。

現時点で印刷業者さんの方でもすでに、1月下旬から作業に入っておりまして、おそらく刷り上がったゲラに対してここ違うよっていう指摘を2月3月に重ねていくと考えております。

2月3月と言いましたが、実際は2月で、ほぼ終わらないと、業者さんの印刷する時間も必要になりますので、実際はこの1、2週間でまたやりとりさせていただいてという形になりますので、この間の経過でいいますと、基本的にはワーキングに任せていただいたというふうに確認をとっておりますので、ワーキングのメンバーに対してはメール等でご確認して調整はさせていただければと思っております。

(会長)

もうそのような状況があったこと2月の末3月頭には印刷作業を始めるということですね。よろしいですか。

(委員)

もうワーキングの検討会もないので、校正を頑張ってきたので、もしタイミングがあればみんな1回集まればと思っていますが、今までみたいに継続的に週に1回、集まってということは1月の最後の週で終わりました。

(会長)

短期間で、これだけまとめていただいて本当ご苦労さまでした。

あとはおおむね練られたすごく素晴らしい文章だなと思っています。

9ページの病院福祉施設等の不当な差別的取り扱いの事例の説明のところでどっちがいいのかなと思って悩んでいます、介助者や支援者、付き添いの人だけに話しかけるっていうのと付き添いの人だけに話しかけるどっちの方がインパクトあるのかなと思っています。

どっちのフレーズがいいのかと思ったりしています。

校正のところで、もう1回点検していただければありがたいと思います。

本当にどうも御苦労さまでした。

あんまりでしゃばりつもりはありませんが、専門なので16ページの発達障害のところは、

自閉症アスペルガー症候群などを今は自閉症スペクトラム障害っていうふう  
に自閉症とかアスペルガー症候群とか言葉は、最新の表現の仕方、調整をどなた  
がするのかな？

言い出すと自分がしなくてはいけなくなりますが…

(委員)

多分これどこかで作ったものを使った文章なので、すいません素人なので、ぜひ先生に作っていただきたい。

(会長)

もう今の段階では手を離れて、パンフレットチームがよろしければ全然大丈夫じゃないですけど、やはりここは違っているんで、早急に今週中にチェックだけでも、対応したいと思います。

あと概要版の最終ページですが、枠が多分狭かったのか字が隠れています。

(委員)

違った目で見ると、ここはっていうことそれぞれのこれまた次の課題になりますが、一般市民の方に配っていくのかとか、配る方法や周知の方法もどうしていきますか。

(委員)

概要版じゃない方の19ページですが「知っててよかったメンタルヘルス」の掲載は、一番下のところのらく福社会に並び地域生活支援センターそらのホームページからご覧になれますとありますが、今すでにらく福社会では、閲覧することができますが、そらのホームページを今年の5月あたり大改修するので、その時に閲覧できるような形になってしまうと思っております。気になっているとそれだけです。

(委員)

またパンフレットからはなれて、ご報告です。

この間の議員研修で障害平等研修の方が行われました。

傍聴可能ということだったので私も見てきました。

市報にも載っていて、いろんな方がその情報に触れることができる状態でした。

やはり実際に見て傍聴していただきたいですが、議員の皆様の意識が変わっていく姿。

最初に障がいとはっていうことで書いた内容と、最後の方でもう1回障がいとはを考えた内容を壁に貼っていましたが、やはり当事者の方がファシリテーターになってメインになった意外にも何人かこの各テーブルに1人ぐらい当事者がいるので、ディスカッションの中で話している内容までは聞こえませんでした。自立支援協議会でも、事務局もご覧になって感想聞きたいなと思っていましたけれど、その辺、ちょっと無茶ぶりかもしれませんと話していただけますか。

(事務局)

この間、主に生涯発達支援部会の方からいわゆる障害平等研修について、ぜひ取り組むべきだろうというご意見の方いただいております。

2月1日の金曜日に、萌え木ホールで議員の方が障がいっていうと医療モデルを中心に考えていますが、具体的な事例を示していただいて、いや違う社会モデルとして考えていかないといけないと、大きく変わったところは良いと思っております。事務局としても予算の形成過程は具体的には言えませんが、お金に絡むことさえなければ、ぜひ導入したいと考えておりますが、悩ましいところで

DE T研修自体が特定の受講生に対して、研修するっていう形を取りますので、一般市民の方が見たい場合はあくまでも傍聴という形を取らざるを得ないので、対応についてはまだ確定的なことはお答えできませんが、うまくいけば当日見ていただきたいと思います。

(会長)

議員さんが研修されたのでぜひ市役所の職員さんもしていただけたらと思います。ただ予算の方があるので、すぐにはできないことです。

引き続き生涯発達部会で、具体的なこのプランニングをしていただいて、いかがでしょう。

理解啓発という側面の課題になると思います。

そして講演会のお話をさせて下さい。

当事者の立場で、この子の困っている子ども、この視点からどういうことができるだろうということで、やっている講演会です。

今回は熊谷晋一郎さん、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、脳性麻痺で手足が不自由ですが、東京大学先端科学技術研究センターから准教授のこの方をお呼びして、自立とは1人で何でもできていくということがイメージされると思いますが、この方に言わせると違うというお話をしてくれます。そこをやはり排泄と性というところはなかなか切り口としては難しいところですが、ここはもうこの方だったらお話ししてということで、良い機会ですので、この会場でやりますので、お願いします。

(副会長)

こちらの夜明け前っていう映画ですが、呉秀三さんの自伝みたいな形で、社協が12月か11月頃に映画会やられていると思います。小平でも行っている。

府中は事業所と福祉課を中心にして上映会を計画しています。4月18日、2時と7時ご参加いただければと思っています。

(会長)

日本の精神障がいの中で有名な方です、私も見ました。

いわゆる映画じゃなくて、ドキュメントでもない。

泣ける記録映画で、何と表現していいかわからない、映画ではありません。

### 次第3 次回の開催日程について

(事務局)

今回は、専門部会となります。3月7日木曜日の17時から、前原暫定集会施



設等を予約しています。

専門部会を開催される場合は、各会場をお願いします。また、各専門部会でご都合が悪い等がありましたら、事務局まで事前にご連絡ください。

(会長)

では、第4回地域自立支援協議会を閉会いたします。